

第2回環境基本計画策定特別部会での意見等の概要等

1 意見等への対応及び第3回資料に反映させた事項

| No. | 意見の概要 | 委員名 | 対応方針・回答 | 担当室課 |
|-----|---|-------|---|---------------|
| 1 | <p>施策については、今回の案で良いと思う。必要な柱立てというものはそう簡単に削除したりできるものではないので、現行に比較的近い柱立てでも仕方がないと思う。</p> <p>それ以外に次期計画の視点に入れた方が良いと思うことは、急速な人口減少社会問題にどう対応していくのかが次の10年の重要な課題と考える。次の10年でおそらく、今まで経験したことのない人口減少化の中で環境問題を考えなくてはならないので、その辺りをどうするかという視点が必要ではないかと思う。</p> | 青井委員 | ・計画策定の基本的な方向性及び基本目標において、人口減少などの課題を踏まえた内容に修正した。 | 環境生活企画室（企画担当） |
| 2 | <p>国の第五次環境基本計画にSDGsが導入され、特定の施策が複数の異なる課題に総合的に対応するよう、6つの重点戦略を作って、横断的に物事を考えていこうと提案をしている。環境を良くするための経済や社会の考えを統合的に考えたビジョンを示さなければならない。</p> <p>国の計画の考え方から、これまでの3つの社会というものがなくなっているので、県が示した次期計画の柱は根本的に変えなければならない。資料1の柱立てが今までどおりとなっているので、国の計画の考え方を踏まえて書かなければならないと思う。</p> | 渋谷部会長 | ・施策領域（柱建て）については部会資料案のとおりとし、循環型地域社会の形成を除く施策領域名から「社会」を削除した。 | 環境生活企画室（企画担当） |

| | | | | |
|---|---|-------|---|---------------|
| 3 | <p>産業として農林水産業を進めるうえで AI などを使うという考えを提示しなければいけないが、AI を導入する施策について、次期環境基本計画では、それらが環境面でどのように働くのか示さなければならない。</p> <p>また、SDGs の考え方を踏まえ、部局を越え、県だけではなく他のセクターとも連携する姿を、理念として示されるべきと考える。</p> | 渋谷部会長 | <p>・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定した。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 4 | <p>例として示された福岡県や長野県の計画は、国の計画策定の前に作られており、岩手県は国の計画の後に作るということなので、次期計画は新しい国の政策に沿った形で、もう一度具体的に見直してもらいたい。環境省の第五次環境基本計画の概要は非常に分かりやすい内容になっているので、これに沿って作られると県の計画も分かりやすくなるのではないと思う。</p> | 東委員 | <p>・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定した。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 5 | <p>岩手の強み・弱みは10年先には当てはまらないものと思う。また、人口減少は持続可能な岩手を考えるうえで、非常に重要な考えである。</p> <p>環境に関することは長期的なサイクルの中で考えるべきかもしれないが、世の中の変化に対応するため、具体的な部分については、短期見直しをする形で考えて欲しい。</p> | 鷹嘴委員 | <p>・計画策定後、5年経過時に中間見直しを行い、必要の修正等を行う。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |

2 今後、検討していく事項

| | | | | |
|---|--|------|---|---------------|
| 6 | <p>取り扱うテーマがとても広いため、それぞれの立場でどのように関われば良いか分からなくなってしまうので、具体的に分かりやすい図等が必要と考える。資料1で示された図と、こういう「地域循環共生圏」のようなポンチ絵みたいなものをどのように描いていくかというところ辺りが、最初のスタートなのかなと思う。</p> <p>計画の根本的柱というのは依然として重要なテーマではないかということで、表現の仕方は色々あるが、環境基本計画として今あるそれぞれの個別のテーマが次期計画にも重要だと思う。</p> <p>また、国の6つの重点戦略等の中には、岩手県として積極的に関われる分野があると思うので、国で整備されているものを活用しながら、県の強みを主張できるような計画にできれば良いと思う。</p> | 笹尾委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏については、「環境施策」を検討していく過程で、今後、分かりやすい表現についても併せて検討していく。 ・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定した。 | 環境生活企画室（企画担当） |
| 7 | <p>施策領域案の「○安全で安心できる環境の確保」の項目に岩手らしさをうまく取り入れられれば良いと思う。</p> | 伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境施策」において、地域の特色や特長、地域資源を活かした取組について検討していく。 | 環境生活企画室（企画担当） |
| 8 | <p>経済の発展なしに地方の再生はないと思う。バックキャスト思考で考えると共に、県内の発展と環境、社会をいかにリンクさせながら具体策を作り出すかということが重要である。</p> | 林委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な施策の内容を記載する段階において、目指す姿等や具体の取組、各主体の役割等について検討していく。 | 環境生活企画室（企画担当） |
| 9 | <p>長期的なビジョンを示して10年でやっていくという話と、具体的な施策を進めていくという話があったが、アクションプランという形で年限を決めて、どこで・誰が・どのように対応していくのか具体的に示して作り上げていく方法もあるかと思う。</p> | 大塚委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境施策」をアクションプラン的なものを担えるような記述にしていきたいと考えている。 | 環境生活企画室（企画担当） |

| | | | | |
|----|--|-------|---|---------------|
| 10 | <p>環境省の計画で言っているのが、持続可能性を支えるためのイノベーションとかA Iとか自動化とか、林業の高性能研究機械とかが入っているが、さらにもっと農業の自動化を進める、そういうイノベーションを含めないと、持続可能性を維持できないと言っている。岩手でそれをどうするか、ビジョンとして出していないと、環境部局だけで考えていたらもう難しくなっている。統合的に、横断的に考えなければいけない。</p> | 渋谷部会長 | <p>・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定するとともに、「環境施策」において取組内容を検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 11 | <p>参考資料7より、地域循環共生圏の考え方は、環境だけではなく経済も地域で循環して、エネルギーも含む自立という考え方を示していこうということが書かれているのではないかな。</p> <p>再生可能エネルギーについては、今までの環境政策だけではなく他の地域政策を加えて、たとえば災害が起こった時には地域に電気が行くこと、自立分散型エネルギーに変えていかなければならないことなどをできれば計画に書き込んで欲しい。</p> | 渋谷部会長 | <p>・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定するとともに、「環境施策」において取組内容を検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 12 | <p>持続可能な岩手を考えていけるような人材を育成するための目標、視点、ビジョンを盛り込んでいければ良いと思う。</p> <p>また、人口減少になった状況を想定して施策を考えられるような人材を育てていくことも考えていかなければならない。</p> | 伊藤委員 | <p>・「環境施策」において、環境学習（環境教育）の視点で検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |

| | | | | |
|----|--|------|--|---------------|
| 13 | <p>改めていわて県民計画をみると、Society5.0のような次世代の考え方が入っていない。スマート農業や、エネルギーの地域循環のところでのスマート化、スマート林業など、もう少しその辺が入っていれば、それと関わって環境施策の中にも落とし込めたのかなと思う。</p> <p>エネルギーの地産地消などはまさに資源エネルギーポテンシャル全国2位の岩手県だからこそ、環境施策の中でこういうことを具体的に示していくということも盛り込めればよいのかなと思う。</p> | 大塚委員 | <p>・国の第五次環境基本計画の重点戦略の考え方を踏まえ、新たに4つの視点を設定するとともに、「環境施策」において取組内容を検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 14 | <p>環境施策の中で新しい雇用を生み出すとか、新しい強みを与えることができないかという考えも県の方向性としてできると思うので、県内一様ではなく、県の中での地域格差についても考える必要がある。</p> | 大塚委員 | <p>・「環境施策」において、地域の特色や特長、地域資源を活かした取組について検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |
| 15 | <p>【文書による追加意見】</p> <p>第五次環境基本計画はSDGsの考え方を施策の全般に生かしており、経済・社会・環境を巡る広範囲な課題に総合的に取り組み、皆で持続可能な社会の実現を目指していくことを目的としている。よって、目指す目標全てにおいて、これまで以上に産・学・官・県民・NPO及び市町村等の連携が必須になる。</p> <p>また、計画は資質高くで当然のことだが、この計画をいかに産・学・官・県民・NPO及び市町村等に知ってもらう行動を協力を推し進めなければならないと思う。まずは、SDGsって何？から知ってもらう必要がある。それには、環境教育の強化、各分野の担い手の育成の強化を盛り込んで欲しい。教育委員会、学校現場の協力が必須である。</p> | 生田委員 | <p>・「環境施策」において、県民等とのパートナーシップについて検討していく。</p> <p>・環境教育の強化については、今後、「環境施策」において、環境学習（環境教育）の視点で検討していく。</p> | 環境生活企画室（企画担当） |

| | | | | |
|----|---|------------|--|------------------------------------|
| 16 | <p>【文書による追加意見】</p> <p>自然との共生社会の形成のところで、岩手県内全域にわたりシカ・イノシシ・クマ等の野生鳥獣による農林業被害や人身被害が起きている。こういったことから、全で一括りに共生という言葉で示すのはいかがか。</p> | 生 田 委 員 | <p>国の「第五次環境基本計画」では、「生物多様性の確保・自然共生」は、生物多様性国家戦略 2012-2020 に基づいて推進するとなっています。</p> <p>同戦略においては、「それぞれの地域で普通に見られる種から希少な種まで多様な野生生物が将来にわたって存続するような、人と野生生物の望ましい関係を築いていくためには、野生生物の適正な保護と管理を進めることが重要」とされており、捕獲などの「管理」を行うことも「自然共生」につながるものと考えます。</p> <p>現在の県の環境基本計画においても、「生物多様性に支えられる自然共生社会の形成」の中で、「野生動植物との共生の推進」として、野生動物についての生息数管理や被害防除対策等を総合的に推進することとしており、次期計画においても、同様の取組を引き続き進めていきます。</p> | 自然保護課 |
| 17 | <p>【文書による追加意見】</p> <p>エネルギーの地産地消については大いに期待しているところ。環境と経済と社会の関係がベストであれば、その他は考えなくても良いというわけにはいかない。デメリットもしっかりと知っておく必要がある。風力発電のため山林を切り開き、自然環境を破壊し、また、太陽光パネル設置のため、土手を掘り返しその土が雨で川に流れ込み、川を汚しているというニュースもあった。</p> <p>風力・太陽光パネル設置の際、必ず県に計画案を提出、許可をもらう制度にならないものか。監視体制は無理か。また、県と企業局との連絡体制はあるのか。</p> | 生 田 委 員 | <p>国の固定価格買取制度（いわゆるF I T制度）では、認定申請時に、事業計画ガイドラインに従って適切に事業を行うことを遵守事項として確認することとしており、関係法令の遵守や自治体への事前相談など、ガイドラインに定める遵守事項に違反した場合は、指導、改善命令、認定取消の対象となるほか、住民説明会の実施など、推奨事項であっても、それを怠っていると認められる場合には、指導等の対象となる可能性があります。</p> <p>県においては、事業実施にあたって地域の意見を確実に聞く仕組みを早期に構築するなど、自然環境や景観に配慮した再生可能エネルギーの導入について国に対し要望を行っているところであり、今後もさらなる制度改善に向けて、国に対し働きかけを継続していく。</p> <p>また、環境生活部と企業局との連絡体制については、これまでも事業者としての企業局と専門的な部分を含めた情報交換等を行っているところであり、これからも継続していく。</p> | 環境生活企画 室（温暖化・エ ネルギー対策 担当） |